

# フランス革命の理念を ヨーロッパに広めたナポレオン

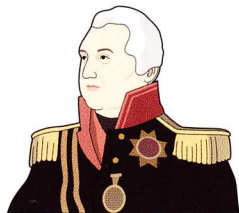
フランス革命のなかから登場した英雄ナポレオンが、皇帝にのぼりつめ、フランス革命の理念によるヨーロッパ統一を目ざして、各地に遠征する。

**フランス革命の混乱のなかで国民が待ち望んだ英雄の登場**

血なまぐさい革命の混乱が続いていたフランスでは、社会の安定をもたらしてくれる強力な指導者の登場が待ち望まれていた。そんななか、コルシカ島出身の將軍ナポレオン・ボナパルトが、王党派の反乱鎮圧やイタリア、エジプトへの遠征などで成果をあげ、急速に台頭してきた。

1799年、ナポレオンはクーデタによって総裁政府を倒し、自らが第一統領となる統領政府を樹立。次いで1802年には、国民投票によって終身統領となった。この間、フランス銀行の設立、教育制度の整備、近代市民社会の原理をまとめた『ナポレオン法典』の制定などを進めて国民の圧倒的な支持を得、04年、ついに皇帝となった。

ナポレオンが行った諸政策のなかでも、とりわけナポレオン法典は民法典の模範として、世界各国の法制に大きな影響を与え、日本の現行民法もその影響を受けている。たび重なる改正で内容は変更されているが、法典そのものは現在も生き続けている。



**クトゥーゾフ**  
[1745~1813年]  
ロシアの軍人。ナポレオン軍の侵攻時に正面对決を避け、焦土作戦を指揮。ロシアを勝利に導いた。

1812年

### ⑥モスクワ占領

ロシアに遠征したナポレオン軍はモスクワを占領したが、クトゥーゾフ率いるロシア軍の焦土作戦により兵糧が不足し、厳寒のなかでの撤退を余儀なくされ、壊滅的な敗北を喫した。

1805年

### ④アウステルリッツの三帝会戦

ナポレオン軍がオーストリア・ロシア連合軍を破った戦い。これにより第3回対仏大同盟が解体した。

### ①第1回イタリア遠征

イタリアにおけるオーストリアの勢力を牽制するために行ったフランス軍の遠征。青年将校であったナポレオンが司令官に任せられ、オーストリア軍を破る。

### ②エジプト遠征

イギリスのインドへのルートをつたために行ったフランス軍の遠征。この遠征中に発見されたロゼッタストーンは、古代エジプト研究に絶大な影響を与えた。

1796年  
1815年

### エジプト遠征 1798~99年

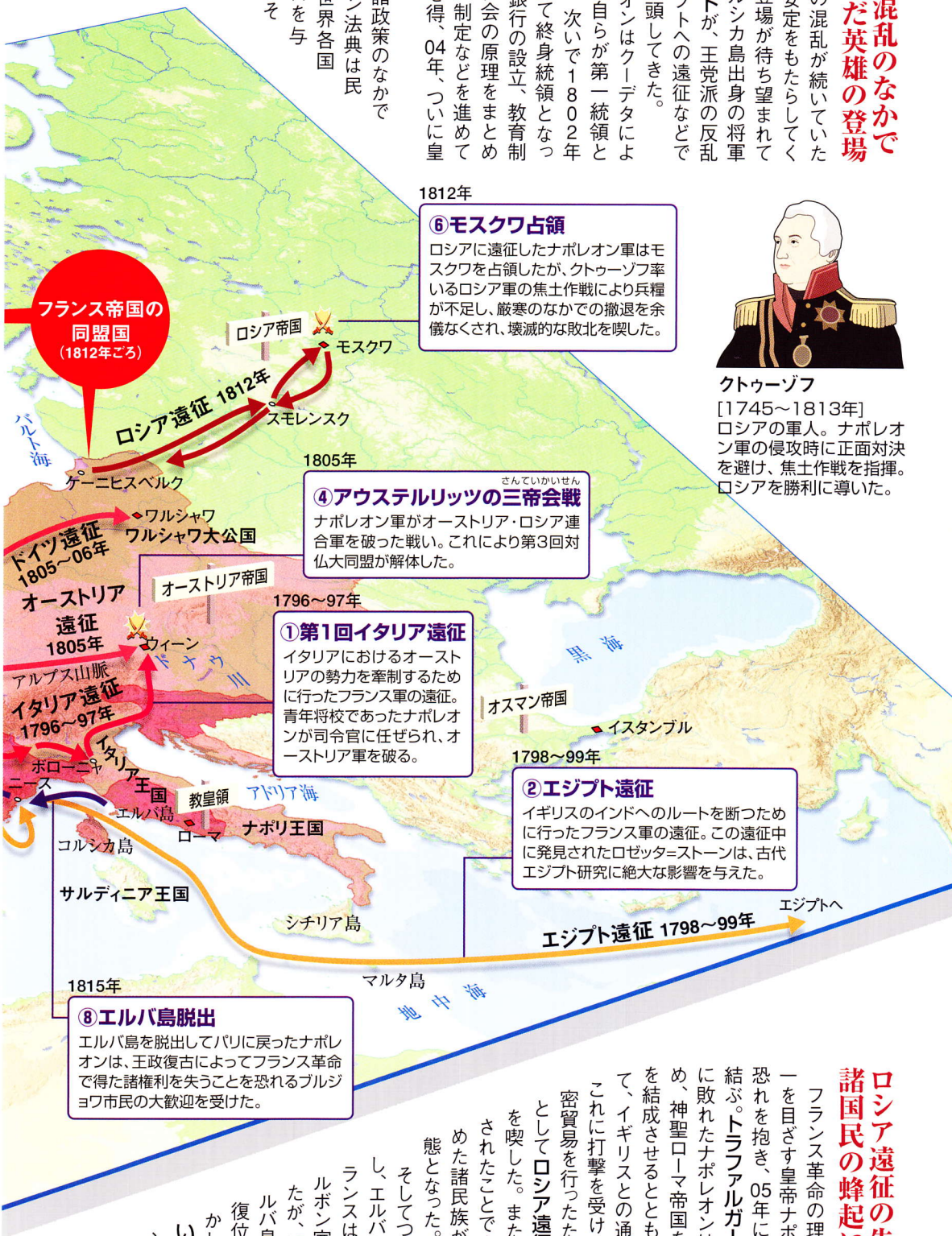
### ロシア遠征の失敗と諸国民の蜂起により失脚

フランス革命の理念によるヨーロッパ統一を目ざす皇帝ナポレオンに、イギリスが恐れを抱き、05年に第3回対仏大同盟を結ぶ。トラファルガー沖の海戦でイギリスに敗れたナポレオンは、大陸を制圧するため、神聖ローマ帝国を解体してライン同盟を結成させるとともに、大陸封鎖令を出して、イギリスとの通商を禁じた。しかし、これに打撃を受けたロシアがイギリスと密貿易を行ったため、ナポレオンは懲罰としてロシア遠征を敢行したが、惨敗を喫した。また、ナポレオン軍に侵略されたことでナシヨナリズムに目ざめた諸民族が、一斉に蜂起する事態となった。

### ⑧エルバ島脱出

エルバ島を脱出してパリに戻ったナポレオンは、王政復古によってフランス革命で得た諸権利を失うことを恐れるブルジョワ市民の大歓迎を受けた。

そしてついにナポレオンは退位し、エルバ島に流刑となった。フランスは王政に復古して、ブルボン家のルイ18世が即位したが、15年にナポレオンはエルバ島を脱出して、皇帝に復位した(百日天下)。しかし、ワテローの戦いで敗れ、大西洋のセントヘレナ島へ送られたのち、そこで生涯を閉じた。



フランス帝国の同盟国 (1812年ごろ)

ロシア帝国

ロシア遠征 1812年

ドイツ遠征 1805~06年

オーストリア遠征 1805年

イタリア遠征 1796~97年

1815年

⑧エルバ島脱出

1798~99年

②エジプト遠征

1796~97年

①第1回イタリア遠征

1805年

④アウステルリッツの三帝会戦

1812年

⑥モスクワ占領

1796年  
1815年

エジプト遠征 1798~99年

### ロシア遠征の失敗と諸国民の蜂起により失脚

フランス革命の理念によるヨーロッパ統一を目ざす皇帝ナポレオンに、イギリスが恐れを抱き、05年に第3回対仏大同盟を結ぶ。トラファルガー沖の海戦でイギリスに敗れたナポレオンは、大陸を制圧するため、神聖ローマ帝国を解体してライン同盟を結成させるとともに、大陸封鎖令を出して、イギリスとの通商を禁じた。しかし、これに打撃を受けたロシアがイギリスと密貿易を行ったため、ナポレオンは懲罰としてロシア遠征を敢行したが、惨敗を喫した。また、ナポレオン軍に侵略されたことでナシヨナリズムに目ざめた諸民族が、一斉に蜂起する事態となった。

そしてついにナポレオンは退位し、エルバ島に流刑となった。フランスは王政に復古して、ブルボン家のルイ18世が即位したが、15年にナポレオンはエルバ島を脱出して、皇帝に復位した(百日天下)。しかし、ワテローの戦いで敗れ、大西洋のセントヘレナ島へ送られたのち、そこで生涯を閉じた。



ナポレオンの台頭と没落

1796年

第1回イタリア遠征(～97年) ①

1798年

エジプト遠征(～99年) ②

1799年 ブリュメール18日のクーデタ  
第一統領に就任

1800年 第2回イタリア遠征(～01年)

1804年

皇帝に即位(第一帝政)

1805年 **トラファルガー沖の海戦** ③  
アウステルリッツの三帝会戦 ④

1806年 **大陸封鎖令**  
(ベルリン勅令)

1808年 マドリッド市民の蜂起 ⑤

1810年 ロシア、大陸封鎖令破棄

1812年

ロシア遠征と撤退 ⑥

1813年 ライプツィヒの戦い ⑦

1814年 皇帝を退位、エルバ島へ流刑

1815年

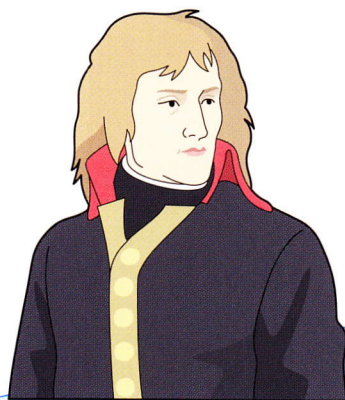
エルバ島脱出 ⑧

百日天下

ワーテルローの戦い ⑨

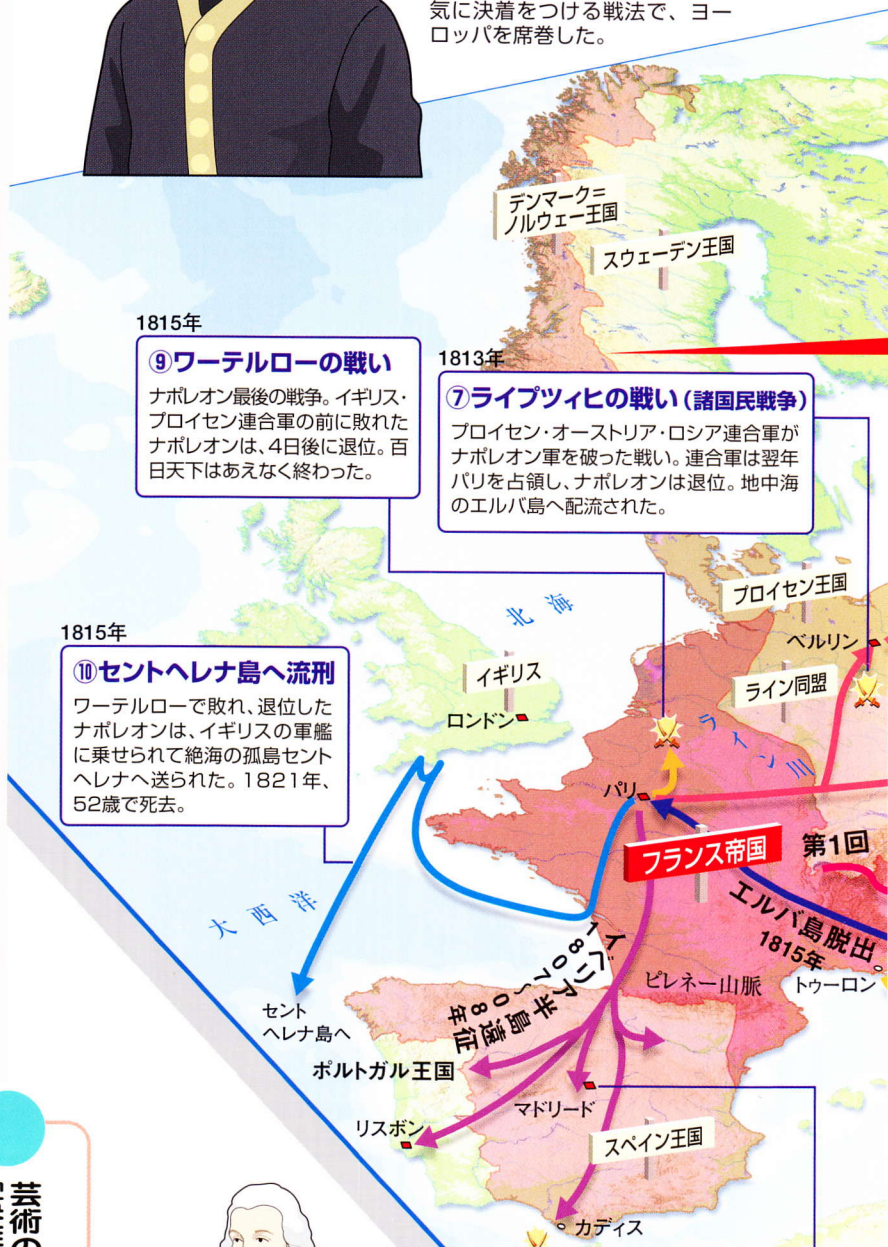
セントヘレナ島へ流刑 ⑩

1821年 セントヘレナ島で死去



ナポレオン

[1769～1821年]  
コルシカ島に生まれ、パリの士官学校を卒業。フランス革命の成果である徴兵制の利点を生かし、大量の兵員を集中させて一気に決着をつける戦法で、ヨーロッパを席卷した。



1815年

⑨ワーテルローの戦い

ナポレオン最後の戦争。イギリス・プロイセン連合軍の前に敗れたナポレオンは、4日後に退位。百日天下はあえなく終わった。

1813年

⑦ライプツィヒの戦い(諸国民戦争)

プロイセン・オーストリア・ロシア連合軍がナポレオン軍を破った戦い。連合軍は翌年パリを占領し、ナポレオンは退位。地中海のエルバ島へ配流された。

1815年

⑩セントヘレナ島へ流刑

ワーテルローで敗れ、退位したナポレオンは、イギリスの軍艦に乘せられて絶海の孤島セントヘレナへ送られた。1821年、52歳で死去。



ネルソン

[1758～1805年]  
イギリスの提督。ナポレオン戦争においてたびたびフランス艦隊を破り、ナポレオンの野望を阻止した。トラファルガー沖の海戦で戦死。

1805年

③トラファルガー沖の海戦

ネルソン率いるイギリス艦隊が、フランス・スペイン連合艦隊を破った戦い。ナポレオンのイギリス上陸を断念させることになった。

1808年

⑤マドリッド市民の蜂起

ナポレオン軍に占領されたマドリッドの市民が蜂起し、市街戦となる。反乱はスペイン全土に拡大し、市民や農民はゲリラ戦でナポレオン軍に抵抗した。

芸術の題材になった  
「英雄・独裁者」ナポレオン

ナポレオンは、「自由、平等、博愛」の理念を実現する英雄と称賛される一方で、侵略者・独裁者として嫌悪の対象にもなった。そのため良くも悪くも、芸術の題材として数多くとりあげられている。大作曲家ベートーベンも、ナポレオンに献上するためにその名を冠した交響曲を作曲したが、皇帝即位の報を聞き失望し、「英雄交響曲」と題名を変更した。ダヴィッドは、ナポレオンの首席画家として活躍し、アルプス越えや戴冠式など「英雄ナポレオン」像をつくりあげる作品を数多く残した。

このほかにもゴッヤ、ゲーテ、トルストイといった巨匠が、ナポレオンやその戦争を題材に優れた作品を残している。



ベートーベン